

## 2021 年第 2 回おおぶ文化交流の杜運営協議会

日時： 2021 年 11 月 18 日（木）14：00～16：00

場所： おおぶ文化交流の杜 会議室

出席者： 委員 6 名／大府市（文化交流課田中課長）事務局（JTB コミュニケーションデザイン：以下 JCD 総合館長野村・総合副館長松井・営業第 2 課森・文化交流部門マネージャー舟瀬 図書館流通センター：以下 TRC 図書館館長上野・図書館部門マネージャー小倉）

事務局 本日はお忙しい中お集まり頂き、ありがとうございます。

これより 2021 年度第 2 回おおぶ文化交流の杜、運営協議会を始めさせていただきます。

司 会 アプローズも開館 8 年目になりました。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、かつてないような運営を強いられていますが、感染対策をしながら安心安全な運営を心がけていると聞いております。

本日は文化部門・図書館部門の今年度上半期報告と、来年度の事業運営計画について議論して頂きたいと思っております。忌憚のないご意見をお願いします。本協議会の規約に則り委員過半数が出席の為会議成立となります。

### ～2021 年度上半期文化交流部門より説明～

司 会 コロナ禍においても工夫して多種多様な事業を展開していると感じている。それではご意見ご質問などがあればお願いしたい。

A 委員 「アボリジナルアートを描こう」のアンケートの意見に書かれている「先生が階段を走っていた」とはどういうことか。

J C D ふれあいの路で行っていたアートを 2 階から俯瞰して見る際に山田先生は子ども達に走らないよう何度も念押しして指導していた。その後、先生がたまたま小走りしていたのを子どもたちが笑って指摘していた。微笑ましい光景であった。

B 委員 現在育み隊サポーターとして活動をしているが、2019 年まではコンサートの手伝いと企画だけであった。昨年度から今年度にかけてワークショップを行ったり、ユニフォームやロゴを作ったりするなどの新しい活動が増えてきて大変良い方向へ進んでいると感じている。アートオブリストとの連携も新しい取り組みだ。

C 委員 図書館子どもまつりにて「カラカラ・マラカスを作ろう」というワークショップを育み隊サポーターの方に実施していただいた。図書館のイベントではおはなし会をされるサポーターの方が多く、工作のワークショップはなかったのが違った体験ができて良かった。また、新型コロナウイルスの感染予防対策でおはなし会に参加できる人数を制限していたので待ち時間ができてしまったが、その間育み隊のワークショップをすることができた。参加者の方からも待ち時間を有意義に活用することができて良かったと好評であった。来年度も連携してこのようなワークショップができると良い。

D 委員 図書館部門と文化交流部門の連携はこれからも積極的に取組んでいただきたい。

E 委員 「朗読・邦楽・語りの競演～舟木淳&野村峰山」「片山博明フルートリサイタル」「人恋し

「岳人酔い村イノシシと権爺90才命」のアンケートを読んで多くのご年配の方が来館されていることに驚いた。また、大府市以外の人でもアローブは駅から遠いがたくさん来られている。

- D 委員 大府市は高齢者向けのイベントを充実させた方がよいという意見を聞いたが、アローブではこのように高齢者の方々が多く来館される事業に取り組んでいるのでこのまま続けていただきたいと思う。

～2021年度上半期図書館部門より説明～

- 司 会 図書館もコロナ禍の中、苦心を重ねて様々な方法で運営されているのが伝わってきた。ご意見ご質問などあれば伺いたい。

- F 委員 新型コロナウイルスの影響で余暇を外で過ごすことを控えている人が多いため、土日を中心に図書館に本を借りに来る人が増えたと感じている。夏休みの平日も来館者が多かったが秋になって落ち着いてきたと聞いた。本に親しむ人が増えるのは良いことだと思う。また、図書館子どもまつりでは中止になるかもしれないという不安を抱えながら準備を行った。実施できたとしても、たくさんの人が集まりすぎてクラスターにならないよう入念に配慮しなければならなかった。そのような状況の中、無事に実施でき何事もなく終了できたのは、図書館はもちろんアローブ全体の協力があったとのことだと感じる。

- C 委員 図書館子どもまつりでは、実際にどの程度の人数になるのか予想がつかず、さらに感染しないよう対策を万全にしなければならなかったため大変だった。開催後も2週間は不安だったが、来館者の方やスタッフ、サポーターの方々の体調に変化があったという報告はなかったので安心した。

また調べ学習について、最近大府市の小学校ではタブレットを使用してネットで検索して行っている。調べるためにわざわざ図書室へ行き、自分の手を使って本を開いて調べるような学習はあまり実施されない。必要な事柄をピンポイントですぐ調べられるのはネット検索の利点でもあるが、実際に本に触れて自分に必要な情報と不必要な情報を分けていく体験は大切だ。図書館で本を使用して調べ学習を行う機会は続けていくとよい。

- A 委員 「これからの遺言と相続」のアンケートの意見に「図書棚に本が番号順に並んでいない」とあるが並んでいないのはなぜか。

- T R C 排架するときに、気をつけて番号順に並べるようにしているが、特に土日の返却数が多く7,000～8,000冊に達する事もあり排架する数が非常に多く、手が回らず苦心している。

- A 委員 子どもたちの司書体験などに組み入れるのもよいと思う。

- T R C 排架サポーターの方も協力してくださっているが、新型コロナウイルスの影響で活動が制限されることもある。様々な方法を検討していきたい。

- C 委員 文章講座「筆談入門」のアンケートで「スマホのアプリを使おうと思う」という意見があるが、図書館のサポートとして今はどのような状況か。また、携帯アプリを使うという予定はあるか。

- T R C 現在はカウンターでの筆談が多く、携帯アプリはまだ導入しておらず検討課題である。朗

読室もあるが使用は少ない。障碍をお持ちの方が参加される大府市の会議に出席したが、朗読室があることを多くの方がご存じなかったので今後積極的にPRを行っていきたい。

D 委員 携帯に入れられるアプリとしてUDトークがある。会話を可視化することによってコミュニケーション支援に役立つアプリだ。以前より精度が上がってきて使いやすくなったので試してみるのもよいのではないかと感じる。

大府市 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、厳しい運営を強いられながら、出来る限りの対策を講じて様々な事業を展開しているのが伝わってきた。やはり事業は人と人の繋がりができたり、新しい連携が生まれたりするなど利点が多いので実施することが望ましい。また、検索はレファレンスの基本である。レファレンスのアップデートを必要に応じて随時行い、活動に活かせるよう維持できたらよいと思う。行政も協力し連携していくつもりだ。

#### 及び2022年度運営計画「文化・交流部門」「図書館部門」より説明～

司 会 定番化されている事業、新規でこれから展開していく事業が程よく盛り込まれていて工夫して運営を計画されているのが伝わってきた。ご意見ご質問などあれば伺いたい。

E 委員 2022年度も新型コロナウイルスの感染状況を見極めるのが大変だと感じる。今回の会議は前回より内容が濃く、実施事業も多くて素晴らしいが、不特定多数が出入りする施設にとって万全ということはないので今後も十分な感染対策をしながら安心安全な運営をしていただきたい。

大府市 現段階では未定とされている事業もあったが、コロナ感染状況などを踏まえて臨機応変に対応していくことができればよいと思う。今年度も文化部門、図書館部門ともに新しいことをすぐに案として取り上げ実行に移していくところは大変良かった。今後も期待している。

司 会 来年度第1回運営協議会の開催予定は2022年5月19日（木）の予定だ。

事務局 お忙しいところご出席いただきありがとうございました。

皆様方のご意見をもとに市民や地域団体の皆様とコミュニケーションを大切にしながら今後も皆様に満足して頂けるように、スタッフ一同努力してきたいと思っておりますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

司 会 以上で協議事項はすべて終了した。閉会。